

問 1 正解 完璧 直前チェック

ITILにおいて、良い目標値を設定するための条件として“SMART”がある。“S”は Specific (具体的)，“M”は Measurable (測定可能)，“R”は Relevant (適切)，“T”は Time-bound (適時)の頭文字である。“A”は何の頭文字か。

- ア Achievable (達成可能) イ Ambitious (意欲的)
ウ Analyzable (分析可能) エ Auditable (監査可能)

問 2 正解 完璧 直前チェック

ITILにおいて、インシデントに対する一連の活動のうち、イベント管理プロセスが分担する活動はどれか。

- ア インシデントの発生後に、その原因などをエラーレコードとして記録する。
イ インシデントの発生後に、問題の根本原因を分析して記録する。
ウ インシデントの発生時に、ITサービスを迅速に復旧するための対策を講じる。
エ インシデントの発生を検出して、関連するプロセスに通知する。

問 3 正解 完璧 直前チェック

“ITサービスが必要とされるときに、合意した条件の下で要求された機能を果たせる状態にある能力”について、定義し、分析し、計画し、測定し、改善する活動を行うITILの管理プロセスはどれか。

- ア ITサービス継続性管理 イ インシデント管理
ウ 可用性管理 エ 問題管理

問 1 ア

解説 ITILにおいて、良い目標値を設定するための条件“SMART”は、サービスレベル・アグリーメントおよびプロジェクト計画における目標値が、具体的 (Specific)、測定可能 (Measurable)、達成可能 (Achievable)、適切 (Relevant)、および適時 (Timebound)であるべきということを覚えやすくするための頭字語である。よってアが正解。

問 2 エ

解説 イベント管理プロセスでは、全てのITインフラから発生するイベントを監視し、運用が通常通りに行われていることを確認する。異常なイベントが検知された際には、インシデント管理などの他の管理プロセスへ通知する。よってエが正解。

ア、ウ：インシデント管理の内容である。

イ：問題管理の内容である。

問 3 ウ

解説

ITサービス継続性管理：災害などでシステムが停止した場合、最小限の業務要件をサポートするために実施する管理プロセスのこと。インシデント管理との違いは、事業要件に合わせて最低限の復旧を行う点である。

インシデント管理：できる限り早く利用者が通常の利用状況へ戻れるように対応する活動。対応策が既にわかっている場合や、根本的な原因がわからない状況であっても、すぐに復旧させることを優先させる考え方となる。

可用性管理：ITサービスを顧客が利用しようとしたときに、サービスが継続して利用できるよになっていること。よって正解。

問題管理：未知の問題が発生したときに、その問題を回避するための方策を立案すること。原因の調査、復旧対策の検討や恒久対策の実施である。

問 4 正解 完璧 直前チェック

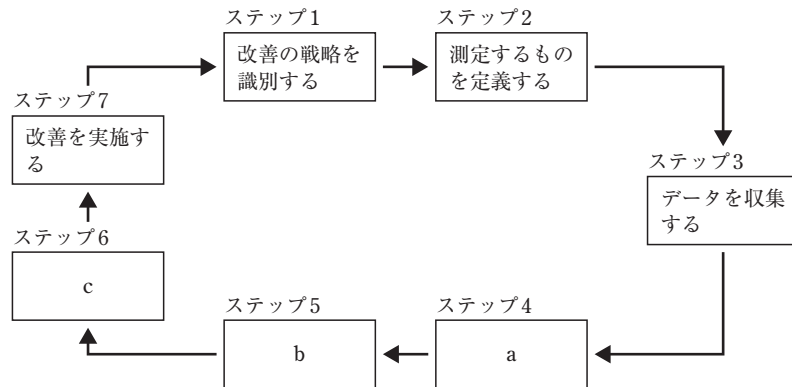
JIS Q 20000-1の“サービスマネジメントシステムの監視及びレビュー”の要求事項のうち、適切なものはどれか。

- ア 監査員は、自らの仕事を監査してはならない。
- イ 監査の基準は、文書化された手順の中に定義してはならない。
- ウ 特定された不適合、懸念事項は、該当する利害関係者であっても開示してはならない。
- エ レビューの間隔は、あらかじめ定めてはならない。

問 5 正解 完璧 直前チェック

ITILによれば、7ステップの改善プロセスにおけるa、b及びcの適切な組合せはどれか。

〔7ステップの改善プロセス〕



	a	b	c
ア	情報を提示して利用する	情報とデータを分析する	データを処理する
イ	情報を提示して利用する	データを処理する	情報とデータを分析する
ウ	データを処理する	情報とデータを分析する	情報を提示して利用する
エ	データを処理する	情報を提示して利用する	情報とデータを分析する

問4 ア

解説 JIS Q 20000-1の“サービスマネジメントシステムの監視およびレビュー”の目的は、サービスマネジメントの目的および計画の達成を、監視、測定およびレビューするためである。なお、監査員は、自らの仕事を監査してはいけないと記載されている。

問5 ウ

解説 7ステップの改善プロセスは、継続的サービス改善で実施されるプロセスである。サービスやプロセスを改善するために実施すべきことを示している。

- ステップ4：データを処理する
- ステップ5：情報とデータを分析する
- ステップ6：情報を提示して利用する

問 6 正解 完璧 直前チェック

ITサービスマネジメントにおける、インシデント及びサービス要求管理プロセスと問題管理プロセスとのインタフェースに関する要件のうち、適切なものはどれか。

- ア インシデント及びサービス要求管理プロセスでは、インシデント解決の進捗状況を問題管理プロセスに伝えなければならない。
- イ インシデント及びサービス要求管理プロセスでは、インシデントの根本原因を調査して、その結果を問題管理プロセスに伝えなければならない。
- ウ 問題管理プロセスでは、既知の誤り及び問題解決策に関する最新の情報を、インシデント及びサービス要求管理プロセスに提供しなければならない。
- エ 問題管理プロセスでは、問題の根本原因を正すために要求される変更を、インシデント及びサービス要求管理プロセスに伝えなければならない。

問 7 正解 完璧 直前チェック

目標復旧時点 (RPO) を 24 時間に定めているのはどれか。

- ア 業務アプリケーションのリリースを展開するための中断時間を、24 時間以内とする。
- イ 業務データの復旧を、障害発生時点から 24 時間以内に完了させる。
- ウ 業務データを、障害発生時点の 24 時間前以降の状態に復旧させる。
- エ 中断した IT サービスを 24 時間以内に復旧させる。

問 8 正解 完璧 直前チェック

ITサービスマネジメントにおける変更要求に対する活動のうち、リリース及び展開管理プロセスに含まれるものはどれか。

- ア 稼働環境に展開される変更された構成目 (CI) の集合の構築
- イ 変更の影響を受ける構成目 (CI) の識別
- ウ 変更要求 (RFC) の記録
- エ 変更要求を評価するための変更諮問委員会 (CAB) の召集

問 6 ウ

解説 インシデント及びサービス要求管理プロセスとは ITサービスマネジメントの「解決プロセス」は、障害発生や顧客からの要望に対して、復旧や解決を提供する。そのうち「インシデント及びサービス要求管理」は顧客対応を中心とした処置を、「問題管理」はサービス提供者がインシデントの根本原因の解決を図るものである。

問題管理プロセスとは発生した不具合、あるいは今後起きるかもしれない不具合の根本原因を追究するプロセス。目標はサービスが安定し、問題が再発しないことを確認することにある。

- ア：インシデントの追跡とライフサイクルの管理は**インシデント管理プロセス**で行う。
- イ：インシデントの根本原因の調査は**問題管理プロセス**で行う。
- ウ：問題管理プロセスで解決した恒久対処方法は、インシデント及びサービス管理プロセスに情報提供することで、解決までの時間短縮など他のプロセスへ貢献する。
- エ：問題の根本原因を正すための変更の管理は**変更管理プロセス**で行う。

問 7 ウ

解説 RPO (Recovery Point Objective) は、災害発生などのときに事業活動を再開するために、事業活動で使用される情報が過去のいつの時点のデータを保証して復旧させなければならないのかの目標値を定義するものである。

- ア：アプリケーションリリースの中断時間は、RPO ではない。
- イ：障害の復旧時間は、RTO (Recovery Time Objective：目標復旧時間) である。RTO は、どのぐらいの時間で復旧させるかの目標値を定義するものである。復旧時間までの時間が長いと被害は大きくなる。
- ウ：正しい。災害発生時の 24 時間前の時点で復旧させることである。
- エ：RPO は、中断したサービスの復旧という意味ではない。

問 8 ア

解説 リリース管理および展開管理プロセス：リリース管理と展開の両方を責務とするプロセス。リリース計画・手順を策定し、その実行が確実に実行されることをコントロールする。よってアが正解。

- イ：構成管理プロセスに含まれる。
- ウ、エ：変更管理プロセスに含まれる。

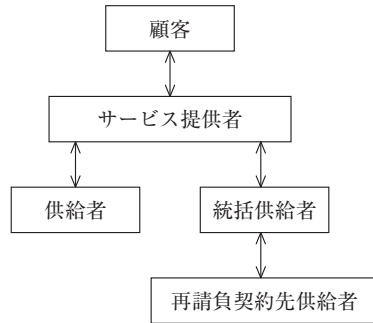
問 9

正解

完璧



図は、ITサービスを提供するサプライチェーン関係の例である。JIS Q 20000-1の供給者管理プロセスにおける、サービス提供者の統括供給者に対する管理責任に関する記述のうち、適切なものはどれか。



- ア サービス提供者は、再請負契約先供給者が統括供給者との契約上の義務を果たすよう、統括供給者が管理していることを検証する。
- イ サービス提供者は、再請負契約先供給者の要員名簿を統括供給者に提出させた上で、統括供給者と再請負契約先供給者の関係及び契約、並びに統括供給者のパフォーマンスを検証する。
- ウ サービス提供者は、統括供給者が再請負契約先供給者を選定するための基準及び評価方法を統括供給者に提示させた上で再請負契約先供給者を選定し、基準の達成度を検証する。
- エ サービス提供者は、統括供給者がパフォーマンス要件を満たせたかどうかを確認するために、再請負契約先供給者のパフォーマンスを直接検証する。

問 10

正解

完璧



ITサービスマネジメントの容量・能力管理において、将来のコンポーネント、並びにサービスの容量・能力及びパフォーマンスの予測は、採用する技法及び技術に応じて様々な方法で行われる。予測に当たり、現在達成されているパフォーマンスを正確に反映したモデルを作成し、モデル化の第1段階とするものはどれか。

- ア 傾向分析 イ シミュレーションのモデル化
ウ 分析モデル化 エ ベースラインのモデル化

問9

ア

解説 サービス提供者は、統括供給者および再請負契約先供給者の役割、およびそれらの関係が文書化されていることを確実にしなければならない。再請負契約先供給者が契約上の義務を果たすよう、統括供給者が管理していることを、サービス提供者は検証しなければならない。よってアが正解。

イ：サービス提供者は、請負契約の場合、法律上再請負契約先供給者の名簿の提出を求めることはできない。

ウ：サービス提供者は、請負契約の場合、法律上再請負契約先供給者を選定してはならない。

エ：サービス提供者は、請負契約の場合、法律上再請負契約先供給者を直接検証できない。

問10

エ

解説 ITサービスマネジメントの容量・能力管理において、将来のコンポーネント、並びにサービスの容量・能力及びパフォーマンスの予測は、キャパシティ管理プロセスに定義されている。パフォーマンスを反映したモデル化の順序は、ベースラインのモデル化、傾向分析、分析モデル化、シミュレーションのモデル化の順で実行される。よってエが正解。

問 11 正解 完璧 直前チェック

バックアップサイトの説明のうち、ウォームスタンバイの説明として、最も適切なものはどれか。

- ア 同じようなシステムを運用する外部の企業や組織と協定を結び、緊急時にはお互いのシステムを貸し借りして、サービスを復旧する。
- イ 緊急時にはバックアップシステムを持ち込んでシステムを再開し、サービスを復旧する。
- ウ 別の場所に常にデータの同期が取れているバックアップシステムを用意しておき、緊急時にはバックアップシステムに切り換えて直ちにサービスを復旧する。
- エ 別の場所にバックアップシステムを用意しておき、緊急時にはバックアップシステムを起動してデータを最新状態にする処理を行った後にサービスを復旧する。

問 12 正解 完璧 直前チェック

ITILでは、可用性管理におけるKPIの例として、保守性の指標である平均サービス回復時間(MTRS)の短縮を挙げている。年間5,020時間提供するサービスにおいて、6時間のサービス停止が1回と14時間のサービス停止が1回の合計2回のサービス停止があった。MTRSは何時間か。

- ア 10 イ 20 ウ 2,500 エ 2,510

問 13 正解 完璧 直前チェック

データベースのロールバック処理の説明はどれか。

- ア ログの更新後情報を用いて、トランザクション開始後の障害直前の状態にデータを復元させる。
- イ ログの更新後情報を用いて、トランザクション開始直前の状態にデータを復元させる。
- ウ ログの更新前情報を用いて、トランザクション開始後の障害直前の状態にデータを復元させる。
- エ ログの更新前情報を用いて、トランザクション開始直前の状態にデータを復元させる。

問 11 工

解説 ウォームスタンバイは障害対策の一つの手法である。本番系のシステム障害に備えて別の場所(バックアップサイト)にバックアップシステムを用意し、障害発生時にバックアップシステムを利用してサービスを復旧する方式である。よってエが正解。

ウォームスタンバイ以外にも障害対策方式として、ホットスタンバイ、コールドスタンバイがある。障害対策として短時間で復旧が可能な順は、ホットスタンバイ>ウォームスタンバイ>コールドスタンバイとなる。

ホットスタンバイ：同じ構成のシステムを2系統用意しておき、本番系を稼働させ、もう一方の予備系は同じ処理を行いながら待機状態にしておく。予備系は本番系と同じ状態で稼働し、本番系に障害が発生すると即時切り替え、処理が引き継がれる。

コールドスタンバイ：コンピュータを2台用意し、本番系が故障したときに予備系を立ち上げて切り替える方式である。

問 12 ア

解説 保守性は、障害発生後に、サービスやシステムなどの構成アイテムを通常の稼働状態に回復できる能力を示す指標である。

MTRS (Mean Time to Restore Service)：平均サービス回復時間は、次式で表わす。

$$\frac{\text{総停止時間}}{\text{サービス中断回数}} = \frac{6+14}{2} = 10 \text{時間}$$

問 13 工

解説

ロールバック処理：データの論理的障害発生時に、記録してあるポイント(チェックポイント)まで戻って再度処理を行うこと。ログの更新前情報を用いてデータベースをトランザクション開始直前の状態に戻す。よってエが正解。

ロールフォワード処理：物理的障害発生時に、バックアップからデータを復旧後、障害発生ポイントまで同一の処理をさせること。ログの更新後情報を用いてデータベースに結果を反映する。

問 14 正解 完璧 直前チェック

データセンタにおけるコールドアイルの説明として、適切なものはどれか。

- ア IT機器の冷却を妨げる熱気をラックの前面(吸気面)に回り込ませないための板であり、IT機器がマウントされていないラックの空き部分に取り付ける。
- イ 寒冷な外気をデータセンタ内に直接導入してIT機器を冷却するときの、データセンタへの外気の吸い込み口である。
- ウ 空調機からの冷気とIT機器からの熱排気を分離するために、ラックの前面(吸気面)同士を対向配置したときの、ラックの前面同士に挟まれた冷気の通る部分である。
- エ 発熱量が多い特定の領域に対して、全体空調とは別に個別空調装置を設置するときの、個別空調用の冷媒を通すパイプである。

問 15 正解 完璧 直前チェック

金融庁の“財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準”における、内部統制に関係を有する者の役割と責任の記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 株主は、内部統制の整備及び運用について最終的な責任を有する。
- イ 監査役は、内部統制の整備及び運用に係る基本方針を決定する。
- ウ 経営者は、取締役の職務の執行に対する監査の一環として、独立した立場から、内部統制の整備及び運用状況を監視、検証する役割と責任を有する。
- エ 内部監査人は、モニタリングの一環として、内部統制の整備及び運用状況を検討、評価し、必要に応じて、その改善を促す職務を担っている。

問 14 ウ

解説 コールドアイルやホットアイルは、データセンタ内のラックを配置する際の並べ方についての説明である。コールドアイルは、ラックの前面を指しサーバやストレージ装置が吸気する際に冷たい空気を供給するためのスペースとなる。

逆の意味でホットアイルもある。ホットアイルは、ラックの背面を指し、サーバやストレージ装置の排熱されるスペースとなる。

問 15 エ

解説 金融庁の“財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準”は、内部統制の基本的枠組み、財務報告に関する内部統制の評価及び報告、財務報告に係る内部統制の監査の基準である。

内部統制に関係を有する者の役割と責任には、経営者、取締役会、監査役または監査委員会、内部監査人、組織内のその他の者が定義されている。

ア：株主については、定義に入っていない。

イ：基本方針を決定するのは、取締役会である。

ウ：監査役または監査委員会の説明である。

エ：金融庁から公表されている“財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準”に、内部監査人の役割が記載されている。

問 16 正解 完璧 直前チェック

プログラム 160 本の開発に期間 40 日間、総工数 800 人日を予定している。10 日目終了時点の予定と実績は表のとおりであった。EVM による進捗状況分析結果のうち、適切なものはどれか。ここで、各プログラムの作成に要する工数は同一とする。

[10 日目終了時点の予定と実績]

	予定	実績
プログラム作成本数(本)	40	30
工数(人日)	200	150

- ア コスト効率、スケジュール効率がともに計画どおりである。
 イ コスト効率、スケジュール効率がともに計画よりも低い。
 ウ コスト効率は計画どおりだが、スケジュール効率が計画よりも低い。
 エ スケジュール効率は計画どおりだが、コスト効率が計画よりも低い。

問 17 正解 完璧 直前チェック

リスクマネジメントに使用する EMV (期待金額価値) の算出式はどれか。

- ア リスク事象発生時の影響金額 × リスク事象の発生確率
 イ リスク事象発生時の影響金額 ÷ リスク事象の発生確率
 ウ リスク事象発生時の影響金額 × リスク対応に掛かるコスト
 エ リスク事象発生時の影響金額 ÷ リスク対応に掛かるコスト

問 18 正解 完璧 直前チェック

PMBOK によれば、プロジェクト調達マネジメントにおける契約タイプのうち、納入者にとってのリスクが最も高いものはどれか。

- ア 完全定額契約
 イ コスト・プラス・インセンティブ・フィー契約
 ウ コスト・プラス定額フィー契約
 エ タイム・アンド・マテリアル契約

問 16 ウ

解説 EVM (Earned Value Management) は、作業の進捗や達成度の金銭的表現を統一した尺度として、プロジェクトのパフォーマンス(コスト、スケジュール)を定量的に測定・分析し、一元的な管理を行うプロジェクト管理手法のこと。EVM では、基本となる四つの指標、(EV, PV, AC, BAC) と、式となる (SV, CV, CPI, SPI) を利用する。

PV (Planned Value) : 計画上の作業コスト

EV (Earned Value) : 確認時点での作業予算

AC (Actual Cost) : 確認時点で実際に投入した実コスト

BAC (Budget At Completion) : プロジェクト完了までの予算

SV (Schedule Variance) : スケジュール差異 $EV - PV$

CV (Cost Variance) : コスト差異 $EV - AC$

CPI (Cost Performance Index) : コスト効率指数 $EV \div AC$

SPI (Schedule Performance Index) : スケジュール効率指数 $EV \div PV$

PV = 200 予定では、200 人日投入する予定。

EV = 150 総工数 800 人日でプログラム 160 本のため、1 本当たり 5 人日

AC = 150 実際に 150 人日投入している。

CPI = $150 \div 150 = 1.0$: 予定どおりである。

SPI = $150 \div 200 = 0.75$: 75% となるため、スケジュール効率が計画よりも低い。

よってウが正解。

問 17 ア

解説

EMV (Expected Monetary Value) : 「リスク事象発生時の影響金額 × リスク事象の発生確率」で計算される。よってアが正解。リスクマネジメントにおいて、リスクを金額で評価するために使用する。

問 18 ア

解説 プロジェクト調達マネジメントにおける契約タイプでは、支払方式の違いによる契約の種類がある。

完全定額契約 : 契約時点で確定した金額となる契約。受注者は、固定した金額のみの収入であるため、リスクが高い。よってアが正解。

コスト・プラス・インセンティブ・フィー契約 : 実際にかかったコスト + インセンティブを支払う契約。

コスト・プラス定額フィー契約 : 固定額と実際にかかったコストが合わせて支払われる契約。

タイム・アンド・マテリアル契約 : 作業スコープが明確でない場合に実施する契約。受注者側は、リスクがない。

問 19 正解 完璧 直前チェック

RAID1～5の方式の違いは、何に基づいているか。

- ア 構成する磁気ディスク装置のアクセス性能
- イ コンピュータ本体とのインタフェース
- ウ 磁気ディスク装置の信頼性を示すMTBFの値
- エ データ及び冗長ビットの記録方法と記録位置との組合せ

問 20 正解 完璧 直前チェック

シングルジョブで動作するコンピュータシステムがある。平均ターンアラウンドタイム A とスループット T の関係として、適切なものはどれか。

- ア $A \times (1 - T) \cong 1$ イ $A \times T \cong 1$
- ウ $A \div (1 - T) \cong 1$ エ $A \div T \cong 1$

問 21 正解 完璧 直前チェック

システム障害発生時には、データベースの整合性を保ち、かつ、最新のデータベース状態に復旧する必要がある。このために、DBMSがトランザクションのコミット処理を完了とするタイミングとして、適切なものはどれか。

- ア アプリケーションの更新命令完了時点
- イ チェックポイント処理完了時点
- ウ ログバッファへのコミット情報書込み完了時点
- エ ログファイルへのコミット情報書込み完了時点

問 19 工

解説

RAID (Redundant Arrays of Inexpensive Disks)：複数のハードディスクを1台のハードディスクのように利用する技術。データを分散して格納したりパリティを設定することにより、高速化や耐障害性を向上している。RAID1～5の方式の違いは、データと冗長ビット(パリティ)の記録方法と、記録位置によるものである。よってエが正解。

問 20 イ

解説

ターンアラウンドタイム：利用者がシステムに処理のリクエストを入力して、そのリクエストの結果が出力されるまでの時間。1件当たりどのぐらいの時間がかかるかの指標。
スループット：コンピュータシステムによって単位時間当たりに処理される仕事(ジョブ)の量のことで、コンピュータの処理能力を表す。

ターンアラウンドタイムは(A 時間/件数)である。スループットは(T 件数/時間)であるため、イが正解となる。実際のコンピュータシステムでは、処理のオーバーヘッドが加わるため($\cong 1$)となる。

問 21 工

解説 システム障害が発生した際には、更新前ジャーナルや更新後ジャーナルなどのログファイルを使用して復旧にあたる。したがって、ログファイルへの書き出しが完了した時点でコミット処理の完了とみなす。よってエが正解。

ア：実更新だけではコミットされていない。

イ：チェックポイント処理とは、あるタイミングでデータベース全体の状態を記録することであるから、本問には不適切である。

ウ：ログバッファへの書き込みが完了しても、ログファイルへの書き出しまでに障害が発生すると、ログファイルが完成しない。

問 24 正解 完璧 直前チェック

無線LANのセキュリティ方式としてWPA2を選択するとき、利用される暗号化アルゴリズムはどれか。

- ア AES イ ECC ウ RC4 エ RSA

問 25 正解 完璧 直前チェック

紙型、ICカード型又はサーバ型の前払式支払手段(プリペイドカード、電子マネーなど)の発行者に対し、その発行業務に係る情報の漏えい、滅失又は毀損の防止措置を求める法律はどれか。

- ア 資金決済法 イ 消費者契約法
ウ 電子帳簿保存法 エ 特定商取引法

問24 ア

解説

WPA2 (Wi-Fi Protected Access 2) : WPAの改良版で、**AES** (Advanced Encryption Standard)を採用したCCMP (Counter-mode with CBC-MAC Protocol) 暗号化方式である。よってアが正解。無線の暗号化は、WEPがセキュリティ的に脆弱だということでWPAが作られ、さらに強力なWPA2が作られた。日々の技術進歩により、暗号を解読できる速度が速くなるため、より強力な暗号技術が必要となっている。

AES : 共通鍵暗号方式のブロック暗号であり、DESの後継規格となった米国政府標準暗号である。

ECC (Elliptic Curve Cryptography : 楕円曲線暗号) : 「楕円曲線上の離散対数問題」を利用した仕組みで、べき乗の計算は簡単でも離散対数の計算は難しいことを利用している。

RC4 (Rivest's Cipher4) : ロナルド・リベスト (Ronald Rivest) によって考案された共有鍵(秘密鍵)暗号方式の一つ。1ビット単位で暗号化・復号が可能なストリーム暗号である。近年では、解析技術の進歩により、短時間での解読が可能となっており利用を終了しつつある。

RSA (Rivest Shamir Adleman) : 素因数分解の困難性を利用した公開鍵暗号方式である。RSAは標準的な公開鍵暗号方式で、発明者3人の頭文字から命名された。

問25 ア

解説

資金決済法 : 資金決済に関するサービスの適切な実施を確保し、その利用者等を保護するとともに、当該サービスの提供の促進を図るための法律である。前払式支払手段の発行、銀行等以外の者が行う為替取引および銀行等間で生じた為替取引に係る債権債務の清算について、登録その他の必要な措置を講じ、もって資金決済システムの安全性、効率性および利便性の向上に資することを目的としている。よってアが正解。

消費者契約法 : 消費者と事業者が結んだ契約において、契約を勧誘されているときに事業者に不適切な行為があった場合、契約を取り消すことができる法律である。

電子帳簿保存法 : 電子帳簿保存法では、届出書を所轄税務署長に提出し承認を得ることで、国税関係帳簿を磁気媒体で保存することができる。

特定商取引法 : 消費者トラブルが生じやすい特定の取引(訪問販売、通信販売、電話勧誘販売、連鎖販売取引、特定継続的役務提供、業務提供誘引販売取引)を対象に、トラブル防止のためのルールを定めた法律。